

SABO NEWS LETTER

第 132 号【発行日】令和元年 8 月 6 日（火）【発行】（一社）全国治水砂防協会

目 次

1. 目次・行事予定	1
2. 前国土交通省砂防部長より退任のご挨拶	2
3. 新国土交通省砂防部長より就任のご挨拶	3
4. 国土交通省砂防部配置図（R1.7.9 現在）	4
5. (一社)全国治水砂防協会 前理事長より退任のご挨拶	5
6. (一社)全国治水砂防協会 新理事長より新任のご挨拶	6

行事予定

（全国治水砂防協会）

10/3(木)～4(金) 理事・顧問会議（北海道内）

10/24(木)～25(金)第 8 回砂防現地視察と討論会（広島県内）

11/19(火)11：00～全国治水砂防促進大会（砂防会館別館 1F 利根会議室）

ご質問、ご意見、ご感想、記事の詳細内容等、お問合せ先

一般社団法人 全国治水砂防協会

住所：〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4

電話：03-3261-8386 FAX：03-3261-5449 E-mail：kyokai@sabo.or.jp

砂防に関する最新情報は砂防協会ホームページをご覧ください。

<http://www.sabo.or.jp/>

前国土交通省砂防部長より退任のご挨拶

会員の皆様へ

今年は、不順な夏の天候が続いておりますが、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、砂防部長を退任しました。部長在任中は、皆様のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。多くの方に出会うことができ、やりがいのある充実した日々を過ごさせていただきました。心より感謝申し上げます。

部長在任 2 年間、様々な災害が発生し、これら災害対応に追われましたが、私が建設省に入省した当時と比べ災害が大規模化するケースが増えたように感じました。また、避難勧告に加え、災害後に求められる応急対策も多岐にわたるようになり、会員の皆様も苦勞をされていることと思います。一方で、日本は少子化の局面に入り、あらゆる分野で人手不足が顕在化しています。

経験のない人口減少のなか、建設会社も大学の先生も減り、これまで以上に苦心する場面が生じました。特に砂防事業の現場は中山間地の場合が多く、知恵を働かせ、安全面だけでなく地域の力という視点からも「日本」を強くしていかなければならないと感じました。

気候変動と地殻変動がもたらす土砂災害は、今後も発生する可能性が高いです。会員の皆様のおかげで土砂災害防止法の区域指定もかなり進みました。今後は実効的な避難をどうやって行っていくかが課題となります。その答えは、現場での工夫や課題を国や都道府県に教えていただき、一体となって施策を動かしていくことと思います。

お陰様で国土強靱化のための予算が伸び、各地で砂防工事が進められていますが、これらは地域の振興につながるものでなくてはなりません。砂防部も新体制になりましたが、引き続き砂防事業へのご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

末筆ではございますが、皆様のますますのご健勝とご活躍、地域の繁栄を衷心よりご祈念申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。

栗原淳一

新国土交通省砂防部長より就任のご挨拶

会員の皆様へ

このたび7月9日付で、栗原砂防部長の後を受け着任いたしました。会員の皆様方には引き続きお世話になりますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

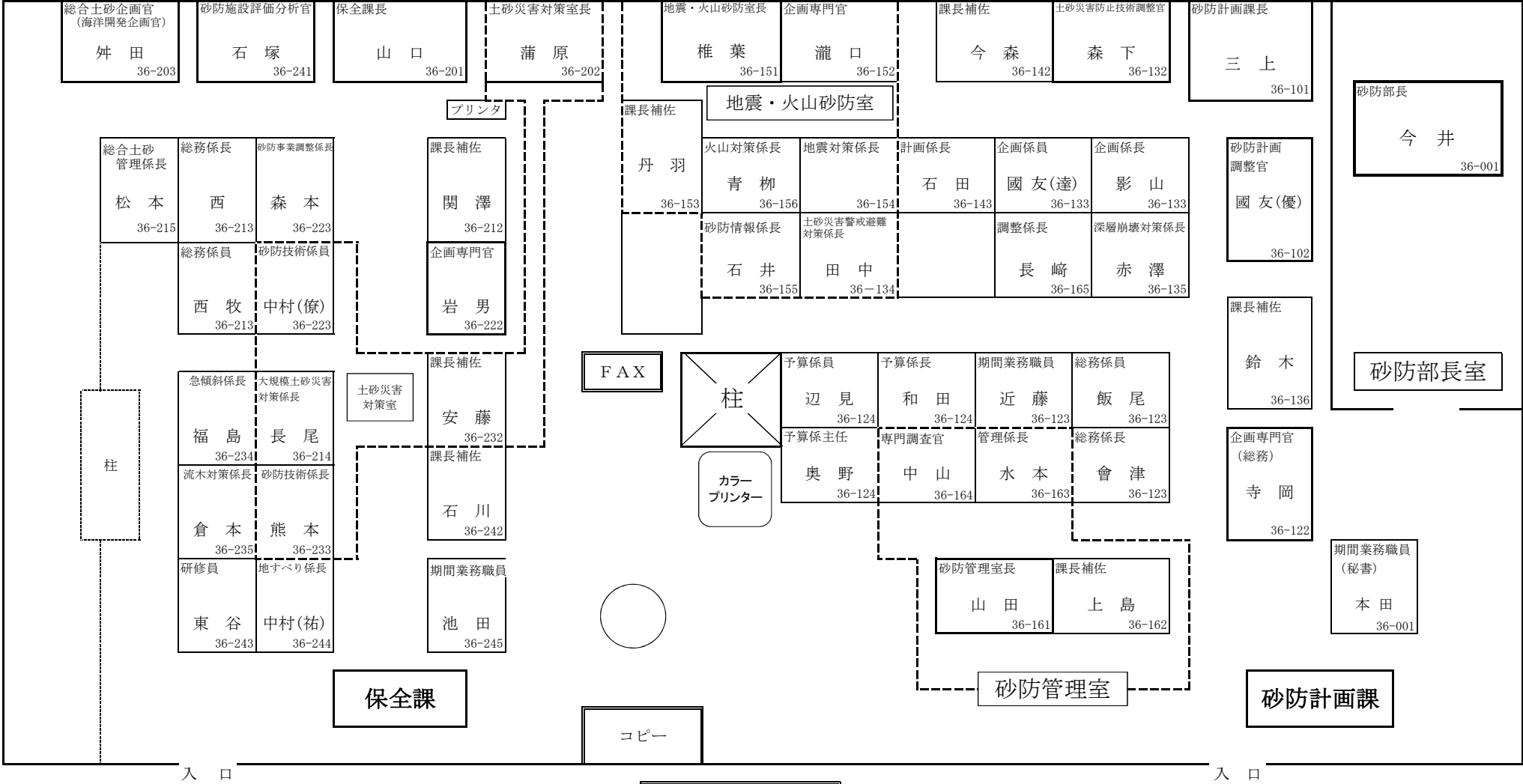
ご承知のとおり、去年は全国的に土砂災害が多発しました。西日本豪雨災害は広域的な災害となり、多くの方が犠牲となりました。これまで着実にハード対策をすすめてきたところであり、整備された各施設の効果は明白であることから、未だに十分でないことを改めて思い知らされました。これまでの事業に加え、防災・減災、国土強靱化3か年緊急対策にて必要な箇所を順次整備してまいります。道のりは長く、引き続き現場での対応をしっかりと進め、また支援して参ります。

近年の土砂災害を見ていると土砂災害警戒区域等の指定や避難勧告の発令等、行政の取り組みに対する指摘が集中していた時期があります。これらを真摯に受け止め、基礎調査及び区域指定の促進、それに伴うハザードマップの作成・公表、さらには土砂災害警戒情報の丁寧な見直しなど、自治体とともに様々な取り組みを進めてきたところであり、その成果もあり、メディアの土砂災害に対する取り上げ方が随分と変わってきたと感じています。土砂災害によって命を奪われる事態が毎年起こる中で、自治体とともに取り組んできた警戒避難のさまざまな取り組みの成果が、意識変化につながってきているとも思っています。

このような傾向にあってもまだまだ多くの課題が残っています。去年の災害では、住民の避難行動について大きな課題が浮き彫りになりました。これを受け検討してきた、住民の実効性のある避難を確保するための施策を実行するため、自治体等への各種施策の充実をもって、また情報発信などは絶え間ない精度向上にも取り組んで参ります。そして区域指定をはじめ、準備してきた各情報が危険な箇所にお住まいの方々にいかに理解を得て浸透し、そして行動に移してもらえるか、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

今年度は基礎調査を終了し速やかに区域指定を行う年です。これにより土砂災害の危険性のある区域を網羅的に把握できます。引き続き警戒避難体制の整備をより一層充実させるためにも、警戒避難の質的向上、近年の測量技術の発展を踏まえて区域指定の精度向上も図る必要があります。また3か年緊急対策に計上した多数の現場が動きはじめています。これまで同様、施設整備についてもご支援・ご協力賜りますようお願い申し上げます。安全の確保によってますます地域が活性化されますこと、皆様方のご健勝をお祈り申し上げます、着任の挨拶とさせていただきます。

国土交通省砂防部長 今井一之



〒100-8918 東京都千代田区霞ヶ関2-1-3
代表 03-5253-8111

砂防部配置図

令和元年7月9日現在

(一社)全国治水砂防協会 前理事長より退任のご挨拶

令和の砂防をよろしく (退任にあたって)

令和の時代に入りました。令和に因んで、何か砂防と関連するようなものが無いかと、頭を捻ってみました。そこで、砂防事業の始まりは山腹工であり、植物を用いることから、木に令を付け加えてみました。つまり、木+令=桧。何と読むかお判りでしょうか?「ヒサカキ」と読みます。残念ながら「ヒサカキ」は山腹工には使いませんが、砂防会館を背負って立つ赤木正雄先生の寿像を囲んで足元に植わっているのが「桧:ヒサカキ」です。そして、砂防会館本館と道路を分ける境として植えているのが「浜桧:ハマヒサカキ」です。更に付け加えるのなら、綿貫会長は神主です。無くてはならないものが、「榊:サカキ」です。隣のJAとの境に植わっています。正に、新しい砂防会館本館は令和の時代を担うに相応しい建物ではないかと勝手に思っています。

その令和元年5月の総会において、理事長を退任しました。平成21年からの理事長在任中の出来事としては、やはり前述の砂防会館本館の建て替えに尽きます。砂防協会設立者の赤木先生は、協会の活動を充実したものにするには、財源を会費だけに頼らずに、会館を建設して、協会の独立を図るのが最善であると考えられ、会館建築という道を選択されました。会館が完成すると、午前6時前、誰よりも早く出勤され、自ら掃除をし、会館内を見回る生活を日々されるほど、愛されかつ精魂を込めて作られた砂防会館も、建物の老朽化が進み、耐震化も必要となり、解体せざるを得ないという苦渋の決断をいたしました。そして、昭和32年から、平河町のシンボルとも言える砂防会館が歴史を重ねて60年、その歴史と伝統の重みを継承して新たな砂防会館に生まれ変わりました。会員の皆様や関係者の皆様のおかげです。

土砂災害を巡る環境は、激甚化、多様化しています。それに比例し、砂防事業の必要性が増大している今日、砂防協会が果たす役割は大変大きいです。今後は、砂防協会の副会長(非常勤)として、後任の大野理事長や会員の皆様とともに、赤木先生の砂防への想いをいつまでも忘れずに、砂防協会の活動をより一層充実し、令和の砂防事業を推進するためのお役に立てればと思っています。

最後に、砂防協会の活動、特に支部総会や各ブロック支部長会議等々を通じて、会員や参与、あるいは直轄事務所長の皆様から頂きましたご厚誼ご指導、ご支援に厚く御礼申し上げ退任の御挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

(一社)全国治水砂防協会 副会長 岡本正男

(一社)全国治水砂防協会 新理事長より新任のご挨拶

この度、一般社団法人全国治水砂防協会の理事長を務めることとなりました。もとより浅学菲才の身ではありますが、砂防事業の発展を目指し、会員の皆様方のお役に立てますよう当協会を運営してまいりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

昭和 10 年（1935）に任意団体として設立された当協会は、昭和 15 年（1940）に社団法人となり、令和元年の今年で 84 年目を迎えております。平成 25 年（2013）には一般社団法人となりました。当協会の定款には「本協会は、砂防に関する必要な方策を考究するとともに、広く国民に砂防に関する認識を深め、砂防の促進により国土の保全及び土砂災害の防止を図り、もって公共の福祉の増進に寄与することを目的とする。」とあります。これは協会設立当時から長きにわたって続く理念です。

昨年の西日本豪雨を例に出すまでもなく、近年の気候変動により豪雨が増加しております。また、地震・火山活動も活発な状況となっております。その結果として土砂災害が多発している現在、砂防による対策の必要性・重要性はますます大きくなってきております。砂防協会設立の初心を忘れずにその使命を未来へ向けて引き継いで参ります。

皆様方のご指導・ご鞭撻をどうかよろしくお願い申し上げます。

(一社) 全国治水砂防協会 理事長 大野宏之